

製品名: ヌクレオフォスミン (2D9) マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM03420**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,ChIP
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% アジ化ナトリウムを含む PBS 液 (pH 7.3)。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,ChIP 1:20
分子量	Calculated MW: 33 kDa; Observed MW: 38 kDa

抗原情報

遺伝子名	NPM1
別名	B23; NPM
遺伝子 ID	4869
SwissProt ID	P06748
免疫原	標的タンパク質に対応する合成ペプチド

背景

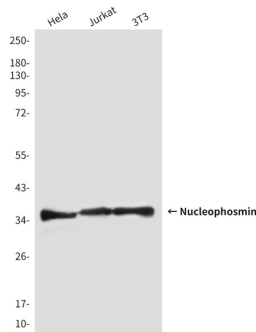
リボソーム生合成、中心体複製、タンパク質シャペロン、ヒストン組み立て、細胞増殖、腫瘍抑制因子 p53/TP53 および ARF の調節など、多様な細胞プロセスに関与しています。リボソームに結合して、おそらくリボソームの核外輸送を促進します。核小体のリボ

核タンパク質構造に関連し、一本鎖核酸に結合します。コアヒストン H3、H2B、および H4 のシャペロニンとして機能します。アプリン/アピリミジン (AP) 二本鎖 DNA に対する APEX1 エンドヌクレアーゼ活性を刺激しますが、AP 一本鎖 RNA に対する APEX1 エンドヌクレアーゼ活性は阻害します。rDNA 上の AP の修復と酸化 rRNA 分子の除去を行う核小体内の APEX1 エンドヌクレアーゼ活性を制御する可能性があります。BRCA2 と連携して、中心体複製を制御します。中心小体複製を制御する：PLK2 によるリン酸化は中心小体複製を誘導する。EIF2AK2/PKR の活性化を負に制御し、EIF2AK2/PKR の自己リン酸化を阻害することでアポトーシスを抑制する。ATF5 による細胞増殖阻害作用に拮抗し、ATF5 誘導性の G2/M 期遮断を軽減する (PubMed:22528486)。MYC と複合体を形成することで、MYC 標的遺伝子の転写を促進する (PubMed:25956029)。

研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

画像データ



NPM1 抗体を使用した HeLa、Jurkat、3T3 溶解物中の NPM1 のウェスタン ブロット分析。